

プーチン独裁の大国ロシアと みんな 1700 年も平和を維持する国民皆のサン・マリーノ

戦地から戻らぬ夫を探すため、イタリア・ミラノ中央駅を発ったジョバンナ扮するソフィアローレンが降り立ったのは、当時ソ連領のウクライナ・キエフ南方の田舎でした。

紆余曲折する二人の顛末は悲しいものでしたが、エンディングの画面に地平線まで広がったヒマワリ畑の美しさ、そこに重なる哀切感に満ちたサウンドトラックは忘れ難い記憶として残っています。

この映画「ひまわり」は、イタリア・フランス・ソ連・米国の合作による第二次世界大戦の悲劇の物語として、世界中でヒットしました。

なおこの大戦で、キエフはヒットラーに侵犯されています。

.....

そのウクライナに今、プーチン・ロシアの一方向的な軍事侵攻！

ウクライナとロシア双方には、お互いに親戚や友人が多いそうで、何のための戦争なのか？ロシア国内から悲痛の声が上がっている匿名寄稿が新聞に載りました。

そして目下、核までちらつかせて人間道の底を踏み外した独裁者の行為は、“何でも有り”の恐怖を世界に植えつけています。

戦争の歴史は、時代とともに進む科学や技術など人類の叡智が戦争に投入されて極限の破壊をもたらして来ました。前の大戦では原爆投下の経験をし、それ以降の局地戦でも毒ガスなど最悪の兵器がエスカレートして来ているそうです。

問題は、さらに報道やSNSを通じて騙しあいのプロパガンダが激しくなって、人間不信が増大するばかりとなっています。しかしこの騙し合いも情報戦の中で、今に始まったことでなく、昔から戦争には付きもののようでした。

・・・このように、世の中を悲観的に見ていると、奈落の底に引き込まれるようになりますので、希望が持てる話題を探していましたところ、実にタイムリーに、NHK-B Sで、ある小国のほほえましくなる紹介がありました。

西暦 301 年の建国以来一度も戦争をしていない国がありました

イタリア国家に囲まれた小さな共和国、サン・マリーノ。

面積は、山手線内とほぼ同じ 60 平方キロ、人口もわずか 34,000 人。超ミニ国家で首都はサンマリーノ。世界遺産もある美しい国です。

驚いたことに、建国が西暦 301 年の世界最古の共和国で、今日までの 1,700 年以上、平和を維持してきているといえます。

国政の仕組みに大きな特長があり、国の大小に関わらず、参考になるかも知れません。

- ① 特定の執政による独裁化を防ぐために、執政は常に2名体制。
- ② 任期はわずか6ヶ月。再選は3年間認められていないといいます。
- ③ 善隣外交を貫いています。

なお軍隊は持たず、国家憲兵という名目の儀仗兵が存在します。

また小さな国の利点で、顔見知りが多く、政治家が身近なのではないかと思います。

改めて、長期政権は腐敗の温床となりかねず、独裁は危険ですね

ミニ国家だから可能であったと考える前に、腐敗の温床とならぬ短期の政権運営に限り、かつ独裁化させない仕組みは、国家レベルでも地方自治体でも参考になるのではないのでしょうか。

その際に大事なのは、政治に関心を持つ多数の国民投票が不可欠ということですね。

そして、善隣友好。これを具体的にどのように努力してきたのか？非常に興味がありますが、訪問するなりして調べないと分かりません。

なお、同じイタリアには、やはり小国で東京ディズニーランドより小さなバチカン市国もあります。人口も800人程度ですが、カトリックの総本山でほとんどが聖職者。ローマ市の中に在って独立した都市国家。首都はありません。

このバチカンには、イタリアとも長く多難な歴史があったそうですが、現在はしっかりと地盤が築かれて、世界的に犯しがたい存在となっています。

時が時だけに、改めて両国を取り囲むイタリアは、度量の広さを示しているかのよう
に思えてしまいます。

(他の平和国家で、スイスなどの永世中立国や南米コスタリカなども、気になるところです。どなたか、お教え頂ければ有難く)

世界中の大きな反戦のうねりは救いです

映像が瞬時に世界で眼にすることができる時代の戦争です。

その結果、どうやらロシアの非が認められ始めたようで、世界中で反戦の大きなウエーブが伝播し、ウクライナへの救いの手が伸び、ロシアへの制裁が際立つようになりました。

さらにSNSの登場で、フェイクに気を付けねばなりません。世界はその是非を判断することができるようになるのではないかと期待します。

なお、独裁による悪夢の幕引きは、いつも当人の存否でしたので、この戦争は果たしてどうなるのか、人類の知恵による解決の妙案があるのか、関心が持たれるところです。

.....

NHK-B Sで、誰が弾いても構わないピアノを世界の空港や駅舎の待合室に据え置き、近くにカメラを設置して弾き手の思いも拾って放映している番組があります。

そこで、演奏し易いのか、曲に共感するのか分かりませんが、ジョン・レノンの「イマジン」を演奏する人が多く、その際に通りがかりの人々が歌を合わせるのに驚きます。

彼が半世紀も前に遺した「イマジン」は、1970年プラハの春の終焉、2001年9月11日アメリカ同時多発テロ、つい最近の香港弾圧など、事が起きるたび思い出したように合唱されてきました。

そして今、ウクライナ国花のヒマワリの背景に、イマジンが鳴り響くようです。